

学年部会 テーマ「情報活用の実践力部会」

実践内容 「学習の見通しをもちながら、意欲的に情報を【あつめる】取り組み」

教科・単元名 6年 総合的な学習の時間 「未来に向かって/キャリア教育」

1. 実践活動のねらい

本校6年生は、総合的な学習の時間で「キャリア教育」に取り組む。文部科学省は「キャリア教育」を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。その「キャリア教育」に、共生・協働の精神を培うという視点と、強度を愛し、将来のふるさと川崎の担い手を育成する視点を加えた川崎独自のものを「キャリア在り方生き方教育」としているが、その取り組みの一環として、6年生は総合的な学習の時間で今の自分を見つめたり、これからの自分を考えたりする。一年間を通した壮大な単元であり、探求活動は大きく3つに分かれているが、そのどの探求活動においても、課題の設定や導入時に【あつめる】活動が設定されている。どの子も学習の見通しをもちながら、意欲的に情報を【あつめる】ことが、その後の活動を充実するものとする。

2. 実践の内容・経過

先にも述べたように、この単元には大きく3つの探求活動がある。2017年1月5日現在では、2つの探求活動が終わっている。1つ目の探求課題は「平小学校ができるまでに努めた人々について調べよう」、もう1つは「身近な人の生き方にふれて調べよう」である。これらの課題に対して、どの子も見通しをもち、意欲的に情報を【あつめる】ためにどのような手立てをとったのかを述べる。

■具体的な手立て

(1) どの子も見通しをもつために

● 思考ツールの活用

使用した思考ツールは、「コンセプトマップ」と「くま手チャート」の2つである。どちらの思考ツールも、1つ目の探求課題において活用した。

コンセプトマップは、関連づけたり、関係づけたり、構造化したりするときに有効な思考ツールの1つである。今回は、自分の調べるテーマを決めるために使用した。各クラスで挙がった平小創設に関して調べてみたいことが一覧になった模造紙を3クラス分掲示し、学年解体でその模造紙を見ながら自分の調べたいテーマとその調べ方をコンセプトマップに記入できるようにした。中心には予め学習課題を記入しておき、何のために今活動しているのか、見通しを子ども達ももてるようにした。

くま手チャートは、アイデアを出したり、広げてみたり、多面的に見たり、分類したりするときに有効な思考ツールである。今回は役割分担をするために付箋と組み合わせて使用した。一番左に自分たちのテーマを書き、具体的に調べることを次の手に、何で調べるかをさらに次の手に、誰が調べるのかを次の手に記入した。この思考ツールを使用したことで、どの子も自分たちのテーマを再確認したり、自分の調べるべきことを明らかにしたりできたので、意欲的に次の活動につなげることができた。



(2) 意欲的に情報を【あつめる】ために

● 指導計画の工夫 ～誰もが「知りたい・調べたい」と思える単元の導入～

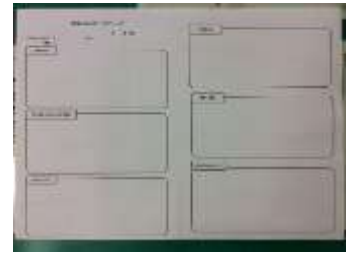
単元の指導計画の導入に、1年生のお手伝いを設定した。この活動の振り返りには、「自分が1年生の頃を思い出した。」「6年生の大変さがわかった。」「今の自分たちがあるのは今までの6年生のおかげ。」など、1年生の視点からのものや、代々6年生が受け継いでいる学校の伝統に触れたものが見られた。その伝統の出発点、すなわち平小の創立について調べるということについて、子ども達はとても興味をもって調べ出すことができた。また、本校は今年度創立40周年を迎え



た。その節目の年に6年生として平小を担っていることも学習への意欲につながっていたように感じた。

● ゲストティーチャーへのインタビュー活動とワークシートの工夫

2つ目の探求課題である「身近な人の生き方にふれて調べよう」では、地域にお住まいのテレビ局員の方や農家の方、PTA 会長や平小学校の卒業生の保護者の方にご協力を頂き、様々な仕事を通じた「生き方」を伺うことができた。ゲストティーチャーは平小に関係深い方にこちらで声をかけたので、子ども達はとても興深く話を聞いていた。仕事といっても具体的なイメージがわからない子が多かったが、様々な方のお話を聞くことで、世の中には多くの仕事があること、そして、誇りをもって働いている人がいることを実感することができた。この活動を受け、個人でインタビューしたい人を決め、身近な人にインタビューをして情報を【あつめる】ことができた。「仕事の内容」「その仕事についたきっかけ」「仕事のやりがい」「大変なこと」「仕事への思い」「6年生へのメッセージ」という観点を予め設定しワークシートに記入した。



また、インタビューを行う上で3つの段階を踏んだ。最初にお話を伺ったテレビ局員の方には教師が子ども達の前でインタビューをし、インタビューのモデルとなるように工夫した。

次に、地域の農家の方やPTA 会長、本校の卒業生である保護者、職員へのインタビューでは、子ども達は話を伺いたい方を2人選択し、小グループにわかれて子ども達でインタビュー活動を行った。

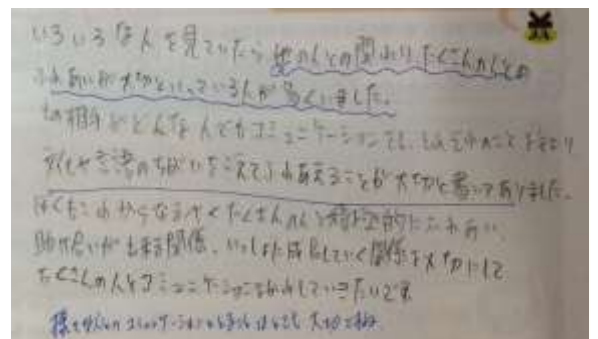
最後は、自分にとって身近な人に子ども達が個人でインタビューを行った。単にインタビュー活動といっても、子ども達の人数を意図的に操作し、最終的に個人でインタビューを行うことができるようにした。そうすることで、ワークシートの観点と併せて、どの子も狙いにそったインタビュー活動を一人で行うことができた。

● かわさきキャリア在り方・生き方ノート「つながり」の活用

かわさきキャリア在り方・生き方ノートは、2つ目の探求課題の導入時に使用した。使用したページは、「5 お仕事クイズ この仕事はどれ?」「6 どんな仕事があるのかな」である。今の自分について考えたり、いろいろな仕事があることを知ったりした。将来就きたい仕事を明確にイメージしている子、ぼんやりと将来を考えている子、まだ何もイメージできない子、様々な子がいる中で、共通していたのは、「自分たちは世の中の仕事を全然知らなかった」という振り返りであった。この活動によって、この後に取り組むインタビュー活動にどの子も「知りたい・聞いてみたい」という同じスタートラインに立てたように感じる。また、このノートは中学校に進学しても使用することになっているため、中学校での学習にも生きるものだと考える。

3. 考察・成果や課題

本単元2つ目の探求課題「身近な人の生き方にふれて調べよう」では、課題の設定(平小の卒業生や関係者は、今現在どうしているのだろう)→情報の収集(ゲストティーチャーへのインタビュー活動)→整理・分析(インタビュー内容から、その方の仕事を通した生き方を考える)→まとめ・表現(画用紙にまとめる)という学びの過程を経た。この探求課題は、インタビュー活動の充実、つまり【あつめる】活動がその後の自己の生き方を考える活動の学びの質を左右する。日常的に支援が必要な子どもの多くが、探求活動の終末に自己の今後の生き方を考えることができたことは一定の成果があったと考えられる。



総合的な学習の時間の学びの過程のイメージ(幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料18-3)によると、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の一連の探求プロセスには、それを通じて働く技能としての4つのスキルが存在する。本実践では、探求活動の「情報の収集」に焦点を当てた。探求活動の質を上げるには、技能としての思考スキルを中核とした4つのスキルに関する資質・能力の育成は必須であると考え。今後、この4つのスキルと他教科の関わりや、日常的なスキルの育成に関する研究は価値のあるものであると考える。

